

2024年3月期 第2四半期（4-9月） 決算説明資料

酒井重工業株式会社

証券コード 6358

URL <https://www.sakainet.co.jp>

2023年11月9日

決算短信（サマリー情報）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	16,785	12.7	1,966	84.2	2,109	92.6	1,534	87.4	361.64	—
2023年3月期第2四半期	14,891	14.7	1,067	47.2	1,095	49.5	818	60.8	193.92	—

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 3,264百万円（86.8％） 2023年3月期第2四半期 1,957百万円（187.8％）

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		％
2024年3月期第2四半期	45,263		28,131		62.0
2023年3月期	40,804		25,295		61.8

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 28,058百万円 2023年3月期 25,232百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	80.00	—	120.00	200.00
2024年3月期	—	90.00			
2024年3月期（予想）			—	180.00	270.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	33,100	5.2	3,300	31.7	3,300	41.8	2,300	35.7	542.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績ハイライト

1. 第2四半期業績の概要

- 1) **連結売上高： 16,785百万円（前年同期比 12.7%増）**
 北米とインドネシアを中心に海外販売が拡大
- 2) **営業利益： 1,966百万円（前年同期比 84.2%増）**
 価格改定の浸透と輸送費の正常化による収益構造改善に加え、円安などの上振れ要因
- 3) **国内販売： 7,447百万円（前年同期比 3.7%増）**
 国土強靱化加速化対策を背景として堅調な販売が継続
- 4) **北米販売： 4,511百万円（前年同期比 36.4%増）**
 インフラ投資法を背景とした道路建設投資の拡大により、需要拡大が継続
- 5) **アジア販売： 3,973百万円（前年同期比 3.6%減）**
 インドネシアで力強い需要回復が続いたものの、中国減速とASEAN市場で成長鈍化の兆し

連結業績ハイライト

2. 事業環境変化への対応

1) 資本収益性向上に向けた取組み

(1) 中期経営方針の進捗

5か年中期計画 : 売上高 300億円、営業利益 31億円、ROE 8.0%
 当通期業績予想（第3年度） : 売上高 331億円、営業利益 33億円、ROE 8.6%
 当第2四半期実績 : 売上高 167.8億円、営業利益 19.6億円、ROE 11.5%

(2) 企業価値向上の進捗（PBR1倍超え）

2023年3月末: PBR 0.68倍（株価 4,010円）

2023年9月末: PBR 0.81倍（株価 5,320円）

2023年4月13日付適時開示「資本収益性の向上に向けた取組状況について」にて取り組み方針を開示

<https://www.sakainet.co.jp/news/item/20230413shihonsyuuekisei.pdf>

2) 価格改定と高付加価値化による収益構造改革

原価率改善 : 70.1%（前年比 4.2%改善）

国内外における価格改定浸透と輸送費正常化により収益構造改革が進展

3) 製品供給力強化

(1) サプライチェーンの強靱化（調達先の修正とデュアルソース化により安定）

(2) グローバル事業活動の修正（国内工場の生産能力拡大と中国工場の部品事業拡大により国内外事業体制が安定）

4) 需要変化対応

棚卸資産回転数 : 3.00回転（前年同期比 0.53回転減（15%減））

増産用部品及び安全在庫積み増し。供給制約緩和に伴い適正在庫水準への調整中

連結業績ハイライト

3. 中長期成長戦略

- 1) **アジア市場深耕** : インドネシア拠点を中核としたASEAN市場拡大（前年同期比売上高3.6%減）
- 2) **海外事業領域拡大** : 道路維持機械の海外市場展開（インドネシア現地生産開始）
- 3) **北米市場開拓** : ニッチマーケティングによるシェア拡大（前年同期比売上高36.4%増）
- 4) **次世代事業開発** : 緊急ブレーキ、転圧管理システム、切削管理システムの市場展開。
自律走行式ローラ、E Vローラの研究開発推進中。

4. 事業環境見通し

1) 世界の建設機械市場

日米の大型インフラ投資計画や、新興諸国におけるインフラ建設と鉱山開発の活発化、更には老朽化インフラの更新需要や災害対策と復興需要など底堅い需要が期待されます。

2) リスクと対応

世界的なインフレの継続や地政学リスクの急速な高まり、技術進化と脱炭素政策に伴う社会変化など、世界経済の行方は予断を許しません。このような時代の変化に適応した経営体質へ転換すべく、「事業環境変化への対応」を進めて参ります。

連結業績

(単位：百万円)

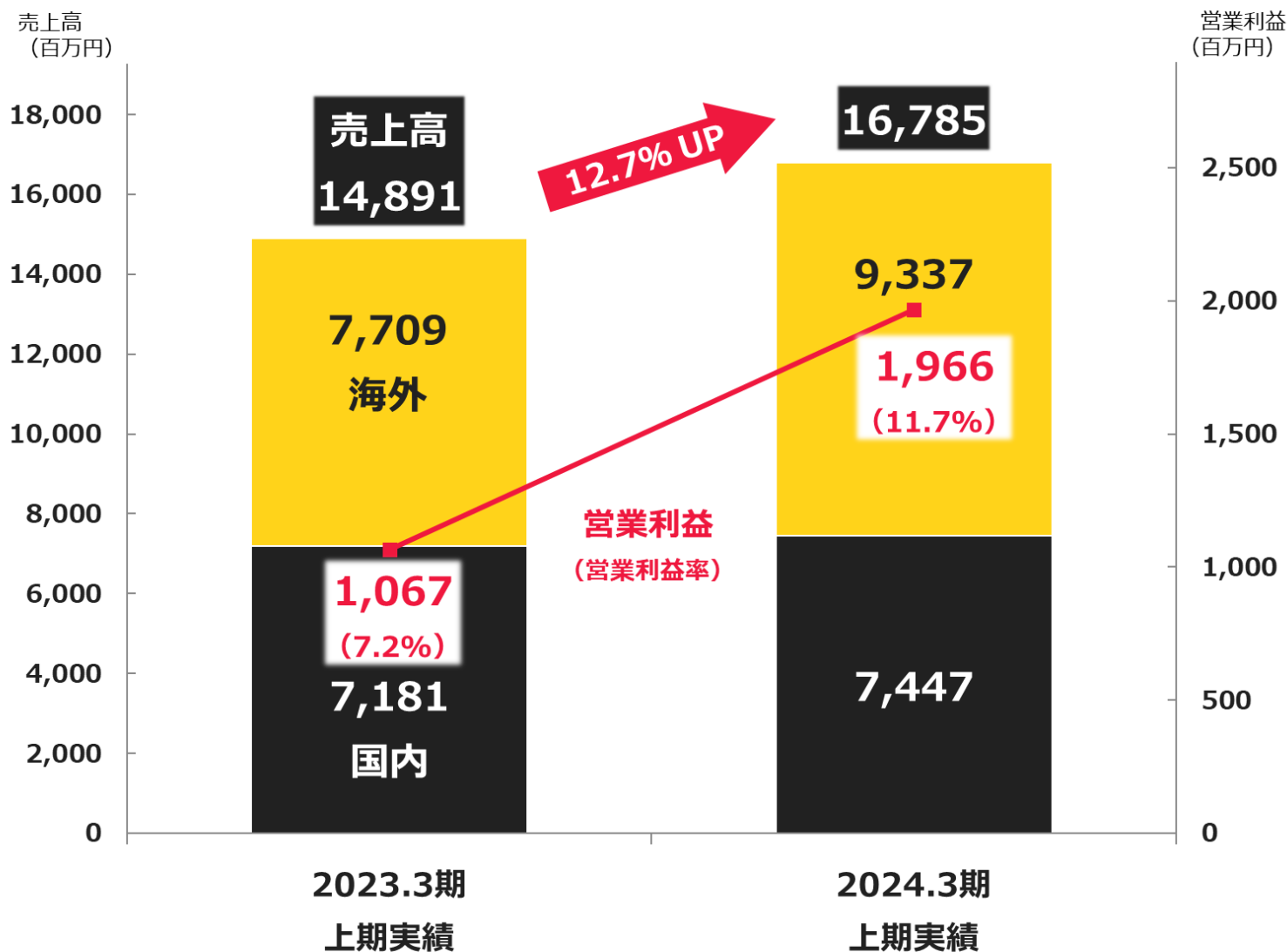
	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	14,891	16,785	1,894	12.7%
国内	7,181	7,447	266	3.7%
海外	7,709	9,337	1,628	21.1%
営業利益 (営業利益率)	1,067 (7.2%)	1,966 (11.7%)	899	84.2%
経常利益	1,095	2,109	1,014	92.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	818	1,534	715	87.4%

(原価率)

(74.3%)

(70.1%)

連結業績（グラフ）



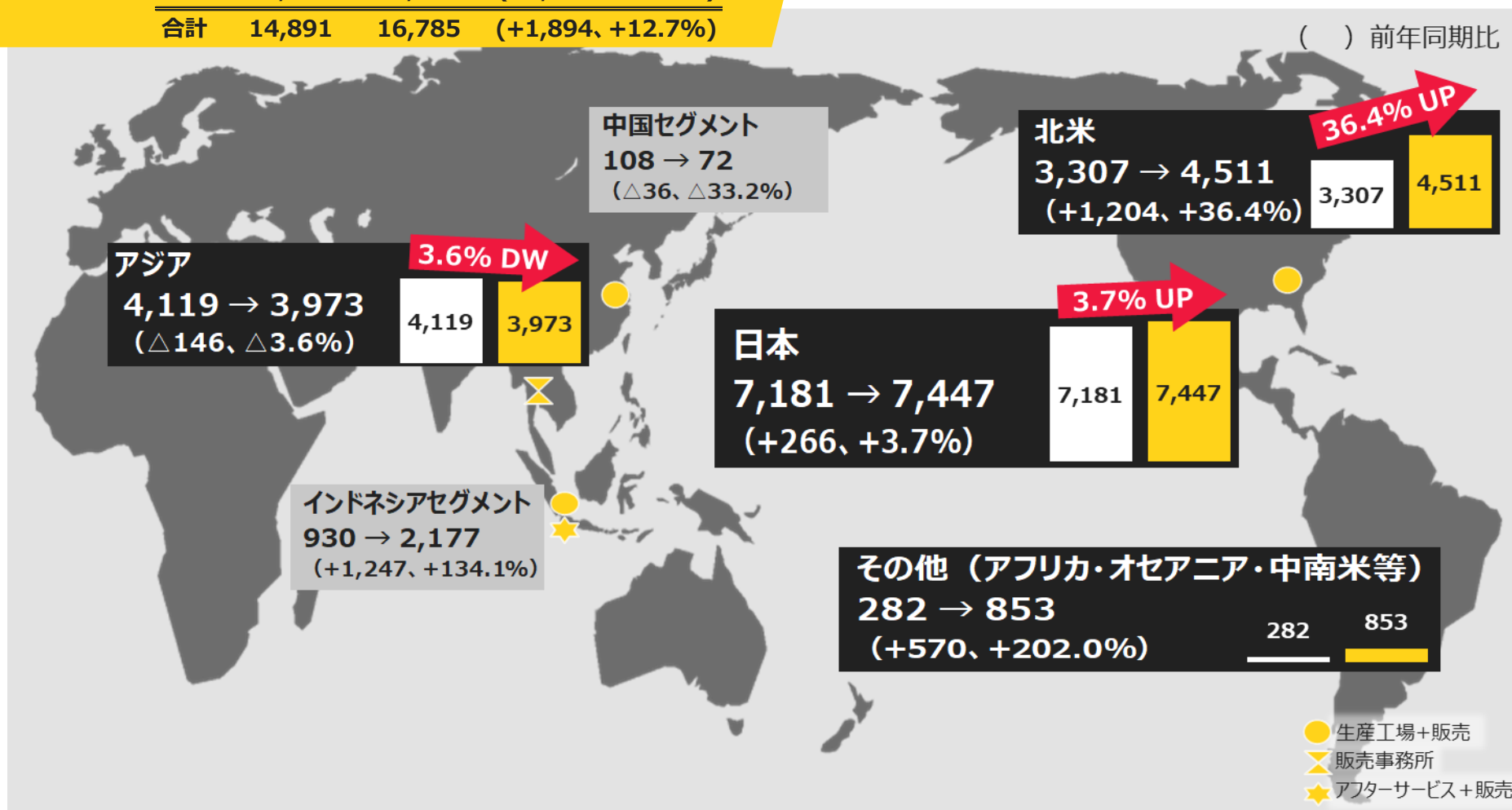
地域区分別売上高（顧客の所在地別に分類）

（単位：百万円）

	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
国 内	7,181	7,447	266	3.7%
海 外	7,709	9,337	1,628	21.1%
北米	3,307	4,511	1,204	36.4%
アジア	4,119	3,973	▲ 146	▲ 3.6%
その他	282	853	570	202.0%
合 計	14,891	16,785	1,894	12.7%

地域区分別売上高（地図）

(単位：百万円)	23.3期 上期	24.3期 上期	前年同期比
国内	7,181	7,447	(+266、+3.7%)
海外	7,709	9,337	(+1,628、+21.1%)
合計	14,891	16,785	(+1,894、+12.7%)



所在地別セグメント（当社の生産・販売拠点別に分類）

（単位：百万円）

日 本	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
外部顧客売上高	10,545	10,024	▲ 521	▲4.9%
内部売上高	1,637	2,295	658	40.2%
総売上高	12,182	12,319	137	1.1%
営業利益	415	630	215	52.0%

（単位：百万円）

北 米	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
外部顧客売上高	3,307	4,511	1,204	36.4%
内部売上高	11	3	▲ 8	▲69.5%
総売上高	3,318	4,514	1,196	36.0%
営業利益	286	533	246	85.9%

（単位：百万円）

インドネシア	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
外部顧客売上高	930	2,177	1,247	134.1%
内部売上高	2,380	1,960	▲ 420	▲17.6%
総売上高	3,310	4,137	827	25.0%
営業利益	348	693	345	99.2%

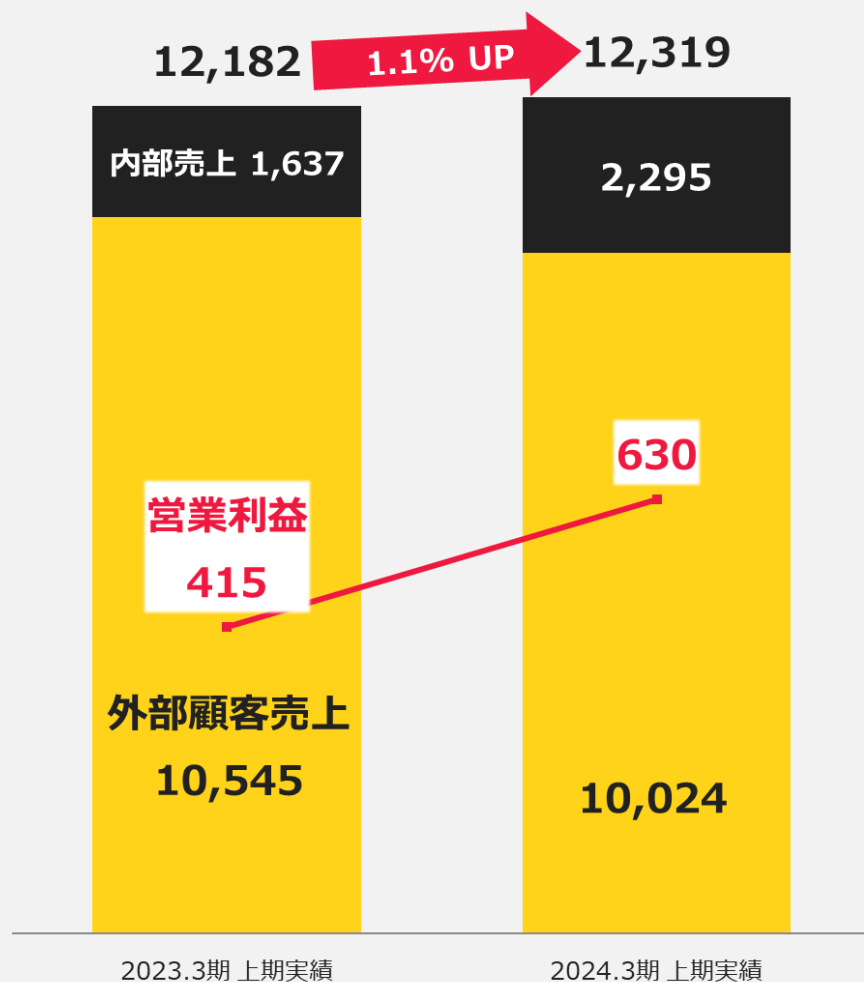
（単位：百万円）

中 国	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
外部顧客売上高	108	72	▲ 36	▲33.2%
内部売上高	354	877	522	147.5%
総売上高	463	949	486	105.1%
営業利益	▲ 20	113	133	－ %

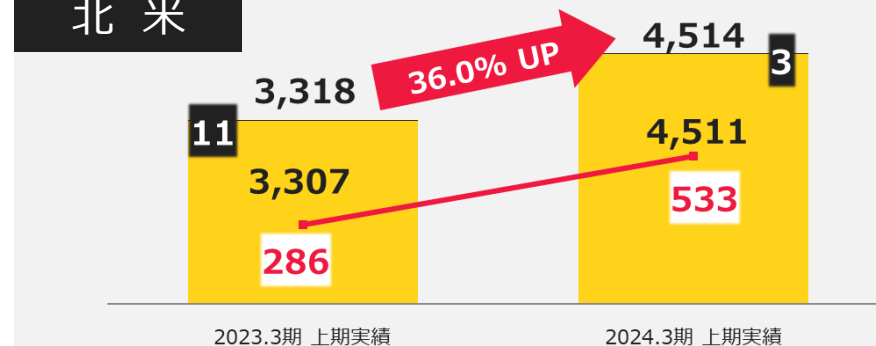
所在地別セグメント（グラフ）

（単位：百万円）

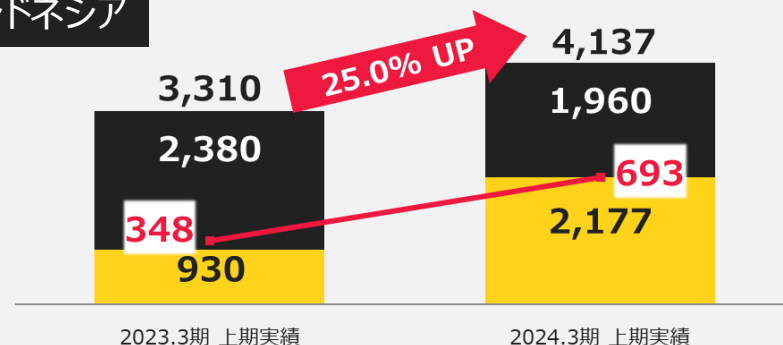
日本



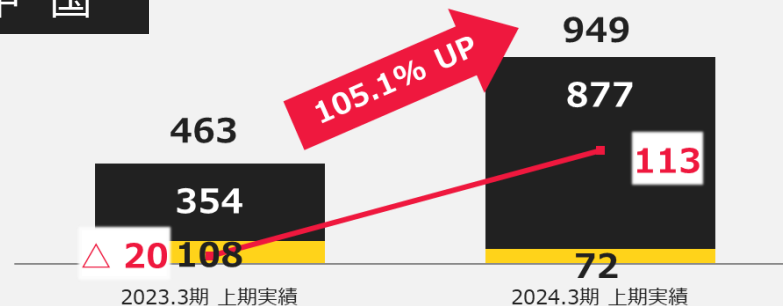
北米



インドネシア



中国



営業利益 増減要因

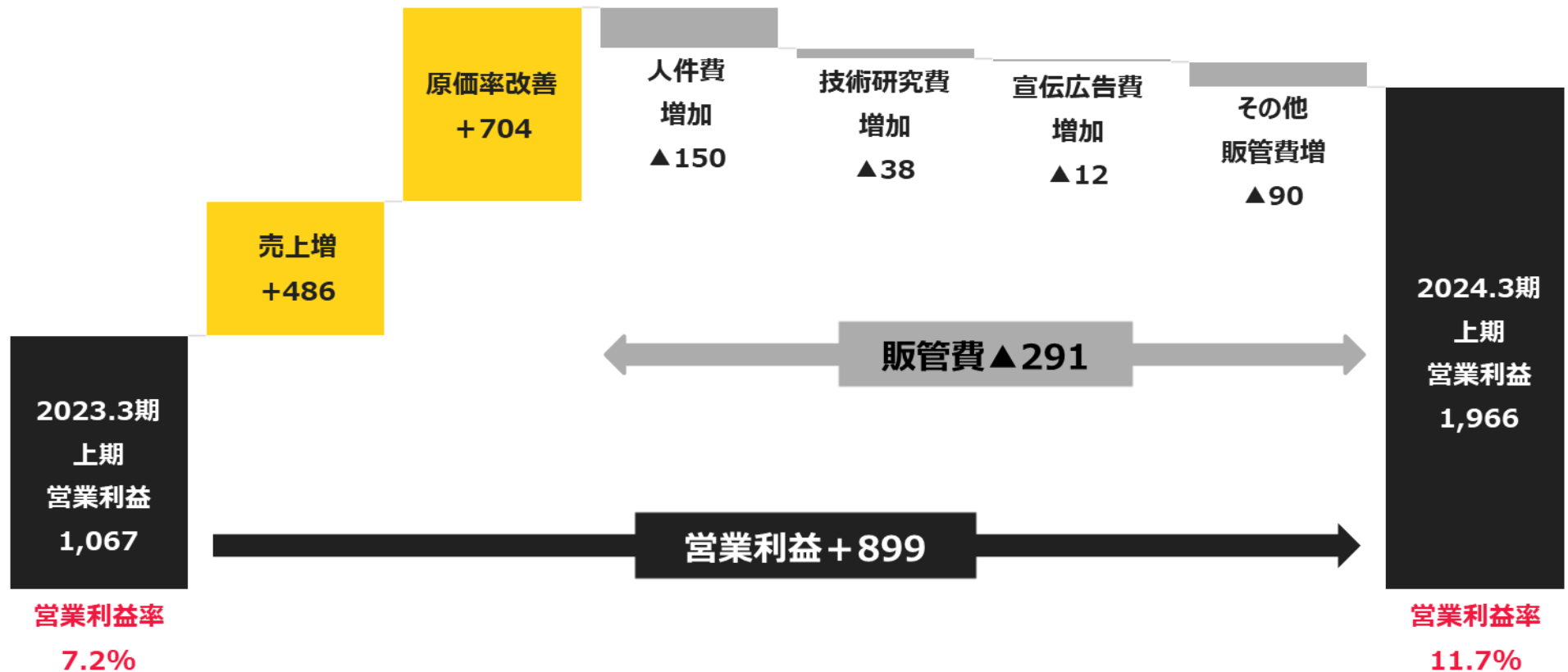
- 売上高を前年同期比1,894百万円増加させた結果、売上総利益は486百万円の増益
- 価格改定浸透と運送費の正常化に加え、円安などの上振れ要因もあり、原価率は4.2%改善し、売上総利益は704百万円の増益
- 人的資本投資強化（人件費増）と事業活動活発化に伴い、販管費は291百万円の増加
- 結果として営業利益は、前年同期比899百万円増の1,966百万円

（単位：百万円）

	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	増減	営業利益への 影響額	備 考
売上高	14,891	16,785	1,894	+486	1,894 x (1 - 74.3%)
(原価率)	74.3%	70.1%	▲4.2%	+704	16,785 x ▲4.2%
売上総利益	3,821	5,012	1,190		
販管費	2,754	3,045	291	▲ 291	人件費+150、技術研究費+38 宣伝広告費+12、その他販管費+90
営業利益	1,067	1,966		+899	

営業利益 増減要因 (グラフ)

(単位：百万円)

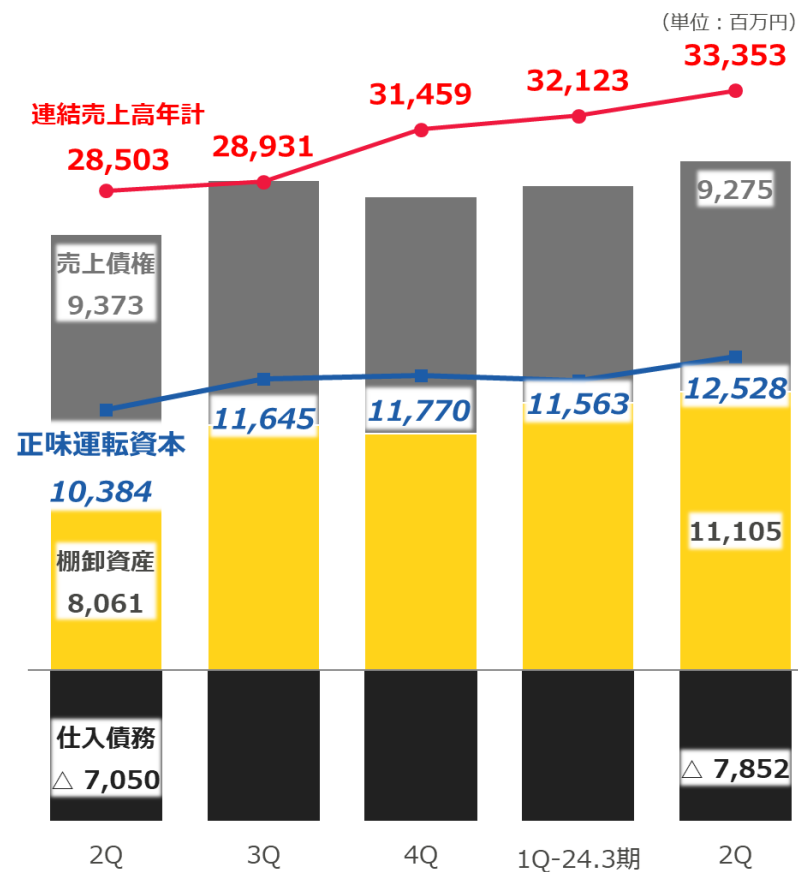


正味運転資本推移（売上債権＋棚卸資産－仕入債務）

- 営業上の投下運転資本は、前年同期比2,144百万円増の12,528百万円。
結果として、正味運転資本/売上高比率は、前年同期比1.1%増の37.6%。
- 棚卸資産は、増産用部品及び安全在庫積み増しにより、前年同期比3,044百万円増の11,105百万円。
結果として、売上高/棚卸資産回転数は、前年同期比0.53回減（15%減）の3.00回に低下。
在庫水準適正化に向けて調整中。

(単位：百万円)

	2023.3期	2024.3期	前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
連結売上高（年計）	28,503	33,353	4,850	17.0%
売上債権	9,373	9,275	▲98	▲1.0%
棚卸資産	8,061	11,105	3,044	37.8%
仕入債務	▲7,050	▲7,852	▲802	11.4%
正味運転資本	10,384	12,528	2,144	20.6%
棚卸回転数	3.54回	3.00回	▲0.53回	
正味運転資本/売上高比率	36.4%	37.6%	1.1%	



連結業績の予想

- 第2四半期連結業績予想の上方修正に伴い、足下の市場情勢を加味して通期業績予想を上方修正致します。
- 今後、原材料インフレに加えて物流コスト上昇や人的資本投資拡大が見込まれる中、北米市場の好調維持が期待されるものの、アジアでは度重なる販売価格改定と先行き不透明感から成長鈍化の兆しが見られます。
 （業績予想値の前提となる為替レートは、米ドル140円で換算）

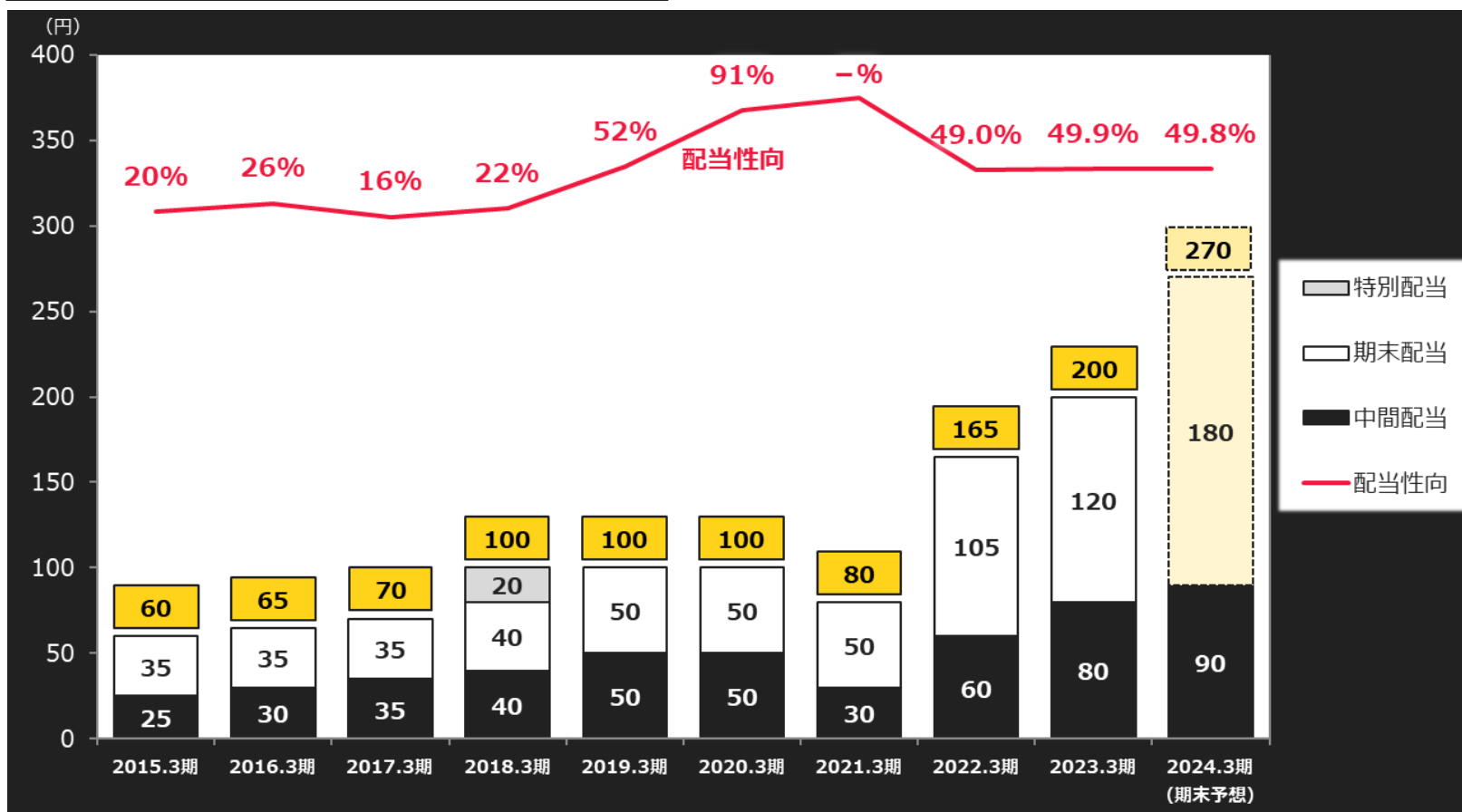
（単位：百万円）

	上期					通期				
	2023.3期 上期実績	2024.3期 前回予想	2024.3期 上期実績	前年同期比		2023.3期 通期実績	2024.3期 前回予想	2024.3期 通期予想	前年比	
				増減額	増減率				増減額	増減率
売上高	14,891	16,100	16,785	1,894	12.7%	31,459	33,000	33,100	1,640	5.2%
営業利益	1,067	1,300	1,966	899	84.2%	2,506	2,950	3,300	793	31.7%
経常利益	1,095	1,250	2,109	1,014	92.6%	2,327	2,800	3,300	972	41.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	818	770	1,534	715	87.4%	1,694	1,830	2,300	605	35.7%
1株当たり純利益	193.92円	182.12円	361.64円	167.72円	86.5%	400.75円	432.82円	542.15円	141.40円	35.3%

配当金の状況

- 2021年6月2日の『中期的な当社経営方針』発表以降、ROE 8 %を目標として、次の配当方針を掲げております。

ROE 3 %を下回る場合：配当性向100%の還元
 ROE 3 %～ 6 %の場合：DOE 3 %の還元
 ROE 6 %を超えた場合：配当性向50%の還元



注) 2017年10月1日をもって10株を1株に株式併合を実施、併合前についても併合後に合わせて表示しております。

中期経営方針 KPI

- 通期業績予想では、売上高331億円、ROE8.6%と、中期計画値を達成する見通しです。
- 当期の収益構造改善には、価格改定の浸透と輸送費正常化に加え、円安など実力以外の上振れ要因が含まれていますので、今後はこの収益構造の足場固めと、更なる業績向上を目指して参ります。

(単位：百万円)

	2023.3期 上期実績	2024.3期 上期実績	2024.3期 通期予想	2024.3期 目標	2026.3期 目標
売上高	14,891	16,785	33,100	26,500	30,000
営業利益	1,067	1,966	3,300	2,000	3,100
年換算ROE（自己資本当期純利益率）※1	6.8%	11.5%	8.6%	5.5%	8.0%
自己株式取得	—	—	取得累積		
			340※2	500 ～ 2,000※3	

※1 年換算ROEは、対象決算期間に基づき年換算しております。

※2 2023年11月9日現在で実行済みの累積金額です。

※3 2026.3期までの累積目標額です。

サステナビリティに関する取組み

脱炭素社会実現への貢献による付加価値提供

自律走行式ローラ：建設施工全体の省力化/効率化(*)



自律走行式ローラ /SV514

今年度中に実際の施工現場に自律走行式ローラ(SV514D)を投入予定。

効率的な締固めにより建設施工現場のCO2排出量削減に貢献。

(*) 自律走行式ローラは、有人作業と比較して約20%の作業省力化が可能となるという実験データあり。

社会的課題解決と事業領域拡大の両立

インドネシアにおけるビジネス化実証事業として当社スタビライザー工法と製品がJICAにより採択



ロードスタビライザ / PM550-s

当社スタビライザー工法（道路補修技術）及び当社製品（ロードスタビライザ PM550-s）活用により、インドネシアのインフラ整備への貢献と当社製品の利用及び販売拡大を目指す。

【本件に関する JICA 開示資料】

https://www.sakainet.co.jp/sdgs/item/JICA%20Bz221033_summary.pdf

人的資本経営に関する取組み

女性管理職比率向上と男女賃金格差縮小への取組み

■ 管理職に占める女性労働者の割合

2023年3月 (実績)	2023年9月 (実績)	2026年3月 (目標)
3.0%	5.0%	15.0%

■ 労働者の男女の賃金の差異 (2023年3月期)

全労働者	正規雇用労働者	正規雇用労働者 (除、管理職)
67.4%	75.1%	82.4%

当社は2026年3月までに女性管理職比率を15%とする目標を設定(*)。管理職を除く正規雇用労働者における男女賃金差異は82.4%となっており、女性管理職比率の低さも男女賃金格差の一因。男女賃金格差縮小の観点からも女性管理職比率の向上に積極的に取り組む方針。

(*) 目標の水準は、女性社員に占める女性管理職比率を全社員に占める管理職比率とほぼ同水準まで引き上げることを基本的な考え方として設定しているため、今後の従業員数、管理職数等の変動により、目標が変動する可能性があります。

SAKAI

MASTERS OF COMPACTION

お問い合わせ

酒井重工業株式会社

I R 室 吉川 孝郎

メール sakai.ir@sakainet.co.jp

TEL 03-3434-3401

FAX 03-3436-6513

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。